

書評



大垣書店 1500円+税

『京大教授の研究人生』 —ある森林経済学者の回想—

著・岩井吉彌

著者の所属は理系学部ではあるが、林業と経済学の融合分野であり、林業関係のフィールドでの聞き取り調査が主たる研究方法である。文献調査から始めて調査結果をもとに新しい知見を発見す

京都大学農学部林学科で学生時代を過ごし、同じ林産経済学の研究室で30年以上教員生活を送った著者が、実体験をもとに、学問とは何か、研究とは何かを教えてください。「学問の奨め」である。大学の研究者の実態を知りたい方はもとより、研究者を志す若い人に一読を勧めたい。

実体験が語る「学問の奨め」

ることが多い。

著者が学生時代を過ごしたのは50年前の京都大学であり、今の国立大学では、自治や学問の自由が脅かされつつあり、教育・研究環境は急速に変わりつつある。しばらく姿を見なかつた学生でも自由な発言が許されるゼミの雰囲気や教員の厳しい指導というのは今も基本的には変わらない。とくに、本書でも様々なケースが紹介されている博士号の取得は今でも修行僧のような厳しさがつづものである。

このような今昔の違いはありつつも、本書が教えてくれるように、研究とは本来自由で楽しいものであることを感じ取って果敢に博士課程に進む学生が増えることを願う。(前田耕治・京都工芸繊維大学分子化学系教授)

さらに、本書で述べられたような数人の教員が所属する講座制は、今の大学では縮小あるいは廃止されつつある。講座制という環境は学問の継承性にとって有効であるが、最近では、准教授や助教でも指導教員として独立した研究室を主宰することが珍しくない。



新評論 2800円+税

『長寿ファミリー企業のアントレプレナーシップと地域社会』 —時代を超える京都ブランド—

編著・辻田素子

世界が多極化、大国間の分断と対立、感染症のパンデミック、戦争、サプライチェーンの混乱：いま、人類社会はまさに先行き不透明なVUCA(ブーカ)時代に入っている。このような世界において、一部の企業が改めて脚光を浴びるようになっており、それは日本に数多く存在している長寿企業である。

老舗育てた京文化の役割

これを踏まえ、京都の地域特性や長寿ファミリー企業の特徴、およびそれらの関係性を考察した。革新的長寿ファミリー企業の共通する特徴には、▽特定の分野で非代替的

な機能・役割を果たしている▽変化をいとわず、新しい技術や知識、ノウハウの蓄積に熱心で、時には業種・業界も超える▽目指すは規模拡大ではなく、経営の継続性である—の3つの主要特徴があることもまとめた。

本書の最も重要な注目ポイントは、ファミリー企業間における「持ちつ持たれつ」の関係や、祇園祭、花街、名門大学の存在など、「社会情緒資産」の形成や保持に役立つ京都の文化特性や役割を探ったことであると評者は考えた。寺子屋や夏祭りなど、商人を生み出す地域社会の独特な仕組みや機能を有している。今後の長寿企業研究においてこれらの地域社会の文化要素にもさらに注目していきたい。(寶少木立命館大学経営学部講師)

期にわたって様々な危機を乗り越えてきた長寿企業ならではの持続性のある経営メカニズムである。本書は日本における老舗出現率の一番高い地域・京都にフォーカスし、産業史や長寿企業の特徴、革新企業を生み出す体制

る。従来の長寿企業研究において、「企業が地域社会によって育てられた、当該地域に立地するがゆえに存続できた」といった視点は脆弱だったと、評者も痛感していたからだ。もちろん京都だけではなく、近江商人が輩出する滋賀県の

近江八幡や五箇荘などの地域も、